

調査対象：流路延長3.5kmを超える 418河川

**下流端の検討**

流域が広大なため、航空写真や地図等から39ブロックに区分。航空写真や地図等から各ブロックの代表河川を設定。代表河川について産卵床適地下流端を現地調査及び過去の調査、既存資料で把握。

**産卵床適地基準：**

- ・河床は5～25mmの礫分が主体で流水が浸透可能
- ・水深0.5m以浅、低層流速0.6m/s以下
- ・隠れ場がある

同一ブロックに属する河川の下流端は、代表河川と同様の標高とした。なお、これより下流に遡上障害がある河川については、産卵可能域はないものとした。

あわせて代表河川等の産卵可能域の下流端でサクラマス幼魚（ヤマメ）の生息状況を確認。

**上流端の検討**

現地調査と既存資料による確認

**現地調査における河川横断工作物等の遡上環境の評価：**

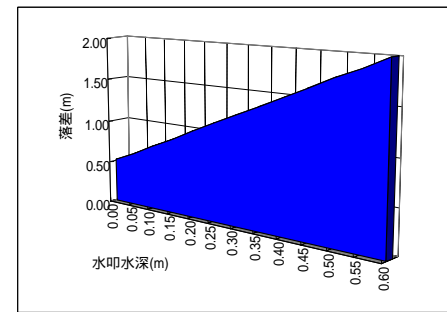
- ・水面落差と水叩部水深（下図）
- ・構造上の遡上障害の有無
- ・魚道の有無、状況

現地調査により、遡上困難と判断された箇所の上流域において、既存資料等により、サクラマス幼魚（ヤマメ）の生息が確認されている場合、上流域も産卵可能域とする。

流速計測



河床状況調査

**産卵可能域の決定**

サクラマス親魚が遡上可能な河川横断工作物等の落差と水叩部水深の関係

- 1 落差が小さく水叩き水深がほとんどない場合、増水時に遡上可能となる。
- 2 増水時はこの関係によらず、遡上可能となることがある。